

男子と女の別を以て人妻並に彼に隨從する川原に
助足方と家内共より婦女子を誘引せしやれり
按て年前男子四十二人午後婦女子七十人
凡六十人なり才子あり日ハハイルシテ讀セ歌ヲ唱テ神
ヲ禱テ盛チ時ニ身^神後^神者口如後方新約
約翰信ヲ講乞フモリ古以學校ニ依存戸波ト申
五人ビヤルハノリ如後ノ河匠ナリハラノカ所シ
如キモウリナクキダ學校ニ婦人斗男子ト書
生ハ即リト由也何レモハイルシテ重ニ七他

書物ハ傍ニシテ鐘ニ讀之安息日ニ何レモ殊^ニ席ヲ
設ケ會合セバラ學校ニ日ハハイルシテ講ス由安息日
ニ前夜ヨリ嚴重ニ集會安息日^也也^也由ビヤル
學校ニ安息日ト夜ハラ未テ講テ男女數多ヲ集
日人日如後ヲ懇ハイルシテ意味ヲ從^テハラ
語不至也ハ川牛尾篠^河杯^中才子ヲ^引之^年
解ス平^海方互^ニ神ヲ禱^テ各^提仗^ル口^外
祈禱^シ執^事ヲ唱^テ其^中間^ニ忍^見事^耳
正月十日迄ハ何カノ學校モ休業ナレ毎^日四字ヨリハラ學校
也^テ新約書^シ中^ニ三^節ヲ講^テ之^互祈^禱也^事

為る我國民

皇國ニ在テ

皇道し以テ奉ケテ

而國內ニ不用テ悔

而政度ヲ思ハス等し祈禱何トテ日本魂ニモ

以テ禱ヲ守ニ絶テシヤ実ニ百勝壞シ急怒身ハ

ニ元陽傳情定中ノ學識ニ取射中事也

尤ウ祈禱ノ時如流ニ微聲ヲ出シ殊勝ケル概

子ニテ校禱形并シ以彼神ノ恩意ヲ促キ亦一

人ヲシテ悲シク知シ衆ヲ和シテ行シ神見テ

知テ耶蘇ノ代人贖罪ヲ為シ斗方衆比テ侍テ々々

女徳未セ必ス上ニ祈テ用杯ニテ飲ム故直ニ其之

ヲ信シ何ノ年一モキモノ手輕キ故易キ事相感

セラシム深ニ其見中ハ男見女子更ニ

皇道し一端ヲモ弁一丈モノ彼を以テ聞テ其謂ハ

時等ノ事ニ成方ニ到テモ不意凡情セハ假虛ニ

彼カモアルハ内膳ニ中ニ以固クテ抄除ス丁時

ハカラス孰中婦女子深着御事ヲ止ハ一度著

習行事申テ去報ノ事一途ニ善キ事ト

小野大先生 正運 國人の心ヲ集セテ之ヲ
抑セテ其心ヲ以テ論ヲ希シク 右ノ
倦 荒稿ノ事^情 見テ痛憤ニ絶テ可キ
小野先生一久^前 其心ヲ以テ論ヲ
新^レ 妙^ク 録^ス

小野

小野大先生
録

小野大先生 可^レ 下
録

二陳先生 石田^ノ 以^テ 書^ク 状^ニ 即^チ 折^リ 書^ク
西^ノ 書^キ 而^シ 中^ニ 三^冊 書^ク 亦^シ 中^ニ 今^ノ 亦^シ 何^レ 書^ク
石^田 先生^ノ 以^テ 折^リ 書^ク 他^ノ 曰^ク 石^田 先生^ノ 書^ク
其^ノ 中^ニ 亦^シ 以^テ 折^リ 書^ク 亦^シ 石^田 先生^ノ 書^ク
以^テ 折^リ 書^ク 折^リ 書^ク 亦^シ 石^田 先生^ノ 書^ク

全通三
りろろ
りろ



114
A

二月二日安息日バラ聖子授テ洗禮ニ式敷

河バラ譚誠ブロシフロエシビヤソン等長老

小川係之助哉問人小川係之助仁村護之丞洗人

篠浜慶之助市尾隆之助佐藤數雄戸波捨郎押川

方義進村漸吉田信好大坪西之助安藤創吉江右

九人更洗給テ小川係之助バラブシ有也河神ヲ

禱テ長老ノ權ヲ授ル而後バンテ裂衣キ葡萄園内



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

取テ晚餐し式ヲ行フ右ニ情真豊田道尔ヨリ巨
細少取テ有シ并ニ安藤創志ニテ上書ニテ妻
香西由志し或テ好シ此度断然公會ニ其書
お立長老尤モ嚴ニ鑑察し日相ニセぬヲ勢勢
前ニ信シテ盛也セぬ日宗院ニ三義アリ一ニ云耶禪
ノ僕ニ云耶禪ニ足ニ云接禪眾見ヲ切換聖靈
ノ徳ヲ接ウハ意味此接禪ヲ漸ニ枝葉ヲ

生ニ森トシテ庇ニ弘傳シ枝枝ヲ生シ枝毎ニ枝
獨彩好シ花ニ露ヲ結ニ必然ノ理ヲなるハ此度
改メ公層ヲ開更洗メ人務ム知唯喜人ナリトモ誘引
シ弘クセぬヲ施ヲ以專旨トス豈知テラカヘケヤハ地
ニ推シ更洗ヲ好メ人若干九一ニ是迄ビヤリン學校
テハ安息日板耳バリ未テ新約ノ肝文ヲ講ス然ニ
ハ菩薩ニ至テ數々臨時板層ヲ開右學校生ヲ始

婦女子或ハ商人等ヲ引入ルノ事ヲ企テ商人職
人日雇等ニ至近一度セヨトシ屋敷内ニ踏号者ニ
一句ナリ凡セヨトシ歸ルル時見テ彼ガ引取テ以
一度説時ニ十ニ八九ハ必ス伏ス也見テ其ハ彼ノ宗
門ノ為ニ身心ノ皆ラ枯ッスル力シテ其ガ可感程
ノ事也如ク勢ニテ不日ニ形毒

即ハ此田ニ充滿シ民心彼ニ奪シテ其ガ畏鳴呼何卒
連ニ防衛スル事甚本ホキテ松ノ根存テ希望ス
右近付見テ其事情荒塔ノク如ク百拜得テ

二月六日

正木復

小栗忠意一様

114
A

壬午三月十四日

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

小池

抑洋教ノ浸入スル大ニ二宗アリ即天主教ト耶蘇教トナリ

此兩宗一根二枝ニシテ大同小異ナリ其區別縷々アリトイヘ

彼^レ誠ノ弟ニ偶像ヲ用ルト不用トナリ取謂天主教ハ

中人以下ヲ諭スル法ニシテ或ハ幻術ヲ以テ誘引シ或ハ金

錢ヲ取り人ノ罪ヲ赦ス杯ノ説ヲ唱ヘ愚民ヲ蠱惑セシム

耶蘇教ハ耶蘇生日千五百年間ニ天主教師脱^レ此ト耶蘇

教師踏^レ得ト大ニ爭論シテ方宗ヲナス彼天主教中ヨリ執

捨シ校^レ獨ニ理ヲ究メ中人以上ヲ勸ム此教天主教ニ比スル毒

彌深カルニ此兩宗何レモ天主耶和華ヲ獨一真神トシテ

崇敬ニ設ヒ國帝ト雖モ天主ノ僕父母ト雖モ唯肉躰ヲ借ル
耳真ノ親ハ天父ナリ 天地间造物ノ主ハ一天主真神ニシテ下忘
皇大神ヲ始總テ神仲ノ虛神虛仲ト唱一諸道ヲ毀壞シ
忠孝ヲ欠國恩ヲ忘却セシム實ニ放僻邪侈耳若以寺教
御國內ニ充ルトキハ下忘金甌無譽ノ

皇統如^天天ノ僕ト称シ 御國政ヲ輕蔑シ人倫ヲ背^山豈是大
害^ララサルヘケンヤ 臣苟モ之ヲ杞憂スル久シ己ニ長崎ニ於天主
耶蘇ノ兩堂創立己未屢教師ニ面談シ又邪徒數員ニ接
シテ彼レカ奸惡ヲ探リ憂情^孫孫益度々本願寺ニ至テ之ヲ泣告

シ東西ニ同志ヲ求^兩兩北ニ有^名名ヲ得^守守防邪ヲ唱^フフ己ニ
十有餘年ニ及 御一新後己巳冬前大忠渡邊殿長崎
ニテリ異宗排除ノ命ヲ報セラル、幾會ヲ得幸ニ同
志兩三名ト議シ政府ニ建言ヲ奉リ直^本本願寺ニ重
大ニ防禦ノ一策ヲ企トイヘトモ故アリテ其効成^ルル志願
空^ノニテ歸國ス昨幸未復試ニ長崎近國荒^嶋嶋々ヲ巡リ
預メ之ヲ見聞スルニ天主敬ノ後己ニ十ヲ以テ數ルニ至彼ノ
徒ノ説^ニニ 御國內一般ヲ以テ數^フフ之^レ云^ハ真^ニ悖^ル
然^ノ至^ル 尤^西西國ハ天主教 然^ルニ昨冬出京ノ内命ヲ蒙リ即當港
盛^ニシテ耶蘇教

ニ在當シバラフロンフロエンヤピヤルソナルトヤキダヤ等ノ
耶蘇教師立入且暮則近一真ニ彼等カ宗徒ト偽リ宗
宗則ヲ護リ祈禱ヲ唱ヘ往々死地ニ入テ之ヲ搜索ス此近
方耶蘇教ノ盛ナルト亦愕然タリ然ルニ彼等都テ効テ
遠代ニ計リ教ヲ懇懇ニ勸メ徐カトシテ衆ヲ誘入スル
其狡猾云カラス之ヲ學ブ者公然トシテ更ニ印刑禁ヲ憚
ル能ナリ刹ヘ近時公會ト稱シ數十人ヲ集メ日夜堂カト
祈禱文ヲ唱ヘ追々洗禮晚餐良ノ禮等ヲ行フ者不少ニ等
止ヲ得ス近日洗禮ヲ受ヘ至ルニ其勢昨尤メ以當早

春ニ比スレハ倍増ノ勢見奉ラ以テ今日ニ比スレハ復倍増ス加
之受洗厚信ノ徒各歸國シ或ハ他國ニ出洋學ヲ表トシ内
此教ヲ強ク要ス或縣下ニ往々弟三ノ御前札ヲ送シ盛ニ洋
教ヲ行フ杯凡聞モ之ヲ殊ニ一縣耳ナラス一西縣如是今所
之ヲ聞呼鳴今日ノ勢ニテ、連ニ防禦スルナリ、不日ニ
蔓延シ大害必茲ニ至ント血淚止メ難シ依之臣等カ同志
蒙東京ニ豊田道々、富港、八安藤、劉太郎、大坂ニ往
道一長崎ニ石丸郎山村三郎等何レモ死地ニ入之ヲ搜索
ス搜索ノ我ハ切論要用トイヘトモ豈搜索身ニテ防禦ト

云ケンヤ若彼巨艦大船ヲ以テ襲トキハ其塲兵器ヲ以テ
之ヲ禦ク今法教ヲ以テ位トキハ教ニ非レハ何ヲ以テ之ヲ
禦クケンヤ然レ

皇國固有ノ明々確々ナル正法アリトイヘトモ之ヲ護持シ之
ヲ教ハ任共ニ偷安怠惰ノ惡弊ニ流シ其職掌ニ志レ
ノ分ヲ顧ミズ唯橋奢ヲ尊トシ行状ヲ失シ教ヲ怠ルヨリ
如是大害ニ至ル加ニ近時僧徒 御新政ノノ意ヲ誤
唯排佛毀釋寺ノ流言ヲ信シ如テ御政度ニ粗語スノ徒少
カラス是全片見シテ事情ニ 疎ニ故キ如是洎思ヲト

虫モ出格ノ

仁惠ヲ施カシ大ニ是等ヲ御改正道ハサレ旧惡遊惰ノ流弊
ヲ沈黙シ真ニ報國赤心ノ徒ヲ擧奉シ私心ハ任テラシメ
ハ自然防禦ニ相運ヘシ併シ當今人心頻ニ輕薄ナルヨリ
六ヶ教教ヲ以テ諭スルトキハ聞者穢ニ絶ヘシテ却テ也
カニ望ムルニ依テ幸ニ

皇國開宗ノ教アリ 故ニ来

天恩國恩ヲ重シ人倫五ヶ教ルヲ以テ宗ノ基本トス
以テ教ヲ以テ

皇道ヲ補助シ懇々民心ヲ諭シ至ラハ億兆

皇國ノ御本ヲ弁ハハ元ヨリ外異ノ教ヲ求ルノ憂ナカルニシ

全ク愚輩カ彼洋教ニ惑ハルハ教ヲ聞カセ故ナリ師

子ノ教サレハ師ノ罪ナリ教ヲ學子ハカル弟子ノ罪ナリ

皇國ノ正教アリトイヘトモ懇々教ルヲナリハ衆民ニ及ビ

能ハス依之教ヲ聞カセ者初テ彼異教ノ懇諭ヲ聞亦聊

謨言ノ生タリトモ彼ニ惑フハ皆正教ヲ聞カセ故豈惑

ハカルヤ之全ク教ハサルノ罪ナリ己ニ洋教ノ大害今日ニ

切迫ス之ヲ傍觀然視フルモノ豈ハハカヤ

皇國ノ民種ナレモ其大害ヲ憂ヒタルニカラス速ニ從

前教ノ届カセ大罪ヲ悔シ真ニ異國教罪ノ為粉骨勉勵

赤心精忠ヲ拊即國民中此彼ノ陽意ナリ神佛カヲ協也

御政度ノ兩翼トナリ共ニ教諭ニ尽カシ防禦ノ御基礎

相立ニ様遊ハサレ度臣等カ素願其事ニ候乾テ是迄

即國內巨多ノ神社仲間アリトイヘトモ其要所ヲ殘シ

盛ニ教諭ノ人財ヲ出サシ無用ノ社堂ヲ廢セラシ社人

僧徒共ニ賊ヲ撰奉シ遊ハシ無學ニシテ教諭ノ任ニ足サルモ

ノハ悉ク放逐シ緞令下賤ノ輩タリトモ人財ヲ被擯シ

教諭ノ任ニ命シ給ハ、後未_レ勉勵修學ノ徒少カラシ
一、如是内教ヲ以テ充實シ、捜索ヲ微細ニセハ如何ニ彼カ校
猶_レ以テ覲_レ謁_レハルトモ、防禦ニ要スルニ右深憂_レ其心
ノ餘_リ淺見ノ愚意ヲ述_レ恐_レテ顧_レハ奉_レ建_レ立_レ候_レ何_レ微_レ原_レ
ハ哀_レ直敷_レ即_レ涼察_レ奉_レ懇_レ願_レ候_レ恐_レ懼_レ再_レ拜_レ頌_レ首_レ謹_レ也

明治五年三月

正木護

隆瑞

吉原よりしりし書

小港

長信

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

二月下旬総列櫻井縣下名主某

元々サムソンの勸ニテ耶
獲ヲ信スル者ニテ川

廉之助ノ
一族ノ由

ヨリハラブレロエシ 西人ヲ請待ニ来リ小川廉之助條

崎

桂之助ヲ召連ル、約設シ己ニ日ヲ期シ同所ヨリ迎船迄



系リタレトモ
付暫ク延引ノ由 当地高嶋屋學子校ヨリ強テ在ハルニ

節名主ヨリノ書中ニモ亦

并三ノ由高札卸タル丁申来ル由ナリ

三月七日大坪正之助ノ咄ニ昨日総列或親族ノ者一人来

テ云近日総房兩國共弟三、即高札卸タリ此仔細并

一難ニ就テハ即手前方ダ久シク耶蘇基督ノ教ヲ信スル

故定テ深キ意味ヲ知ルナラヌ是迄即嚴禁ノ即高札
却ル^レニ餘程宜シキ教ト^モ何卒其意味ヲ聞度思ヒ
ワナ^ク来ルト申由依テ正之助之ヲ聞大ニ喜ヒ耶^ノ稷^ノ
教理ヲ懇^クト^モ吐シ解シ易キ譯書ヲ一二冊借シ与レハ彼
喜テ歸リシ由正之助ヨリ慥ニ承ル

静岡縣下往々并三ノ御高札却タル所アル由^ニ同縣下松
孫六元中村教之助門人東京ニテハ福澤ニ入塾ノ由ニ慥ニ承ル元来
當時^ハヤ^リソ^ノ盛ニ洋教ヲ學子ノ
静岡縣下ハ洋教ヲ學子ノ者多シ就中^ハ中村教之助ト云ハ旧
幕^ノ大儒聖堂^ノ長ニテ頗ル漢學家ニテ威儀正シキ性質

ノ往績ニ近年洋學ノ入り當所ニテハビヤソン
川人ノ由ナリ從前貯ル漢書類
悉ク無用トシテ門人共ニ遣シ專ラ聖書ハイフルヲカ^ラ尽シ耶^ノ稷^ノ教
ヲ以テ縣内ノ人々ヲ盛ニ勸ル由乃^ハ松山孫六杯モ同人ノ指麾
ニテ聖書ヲ重ニ學子ノ由ナリ已ニ二月下旬中村教之助一族
ノ娘共三人ヲビヤソンニ預ケニ未起臥共同人館内ニテ致シ
居ルナリエトビヤソン
已ニ子供ヲ一ヶ月十五席ニテ預リ教授ハ自他國共ニ
等ニ至^リ遠^ク女^ノ話^ハ規則ニテ洋人ノ子或ハ日本ニテ生シタル間子或ハ
ト支那ノ間子杯ハ十人餘モ居レトモ真ノ日本ノ子ハ人モ預ル者ナカリ
以度静岡ヨリ来ル三人ノ娘カ
日本人ノ預ケ始メナリ

三月七日安息日バラノ教會追々人数増シ學校ニテハ操

ニ付海岸三十九番元トハボシ療治所ヲ借耶蘇ノ晚餐ヲ行ハ
此會中ニ米國耶蘇教師
凡ソ年齡六十餘斗ノ者来リ

ハラニ通年ヲ頼ミ公會ノ長老小川廉之助ニ語テ云我支
那ニ入テ教ヲ弘ルヘシ四年ノ久シキニ及フ故アリテ昨今此地ニ
来ル者遠カラズ復支那ニ往クナリ借テ爾等此教ヲ信スル
厚シテ此國ニ盛ニ弘メントスル由大慶ノ至リ大真神ハ意
契フヘシ益信心ヲ堅固ニシテ弘教ニ盡カスヘシ然ルニ我士
四年前支那フチヤウト云處ニ行此處反洋ノ近クニシテ
凡ソ員五十万斗ノ土地ナリ初テ禮拜堂ヲ建ルニ日本ノ

先生ヲ頼ミ外國ノ金ニテ立ルナリ凡ソ九年間教ヲ布クト
雖モ更ニ一人モ聞モノナキ耳ナラス家ナヘ借テ程ノナリ其
中テ追々ニ聞ケ一年ニ二人ツ道ニ入ルモノアリ初公會ハ
總カニ三四人ナリ然ルニ近方ノ田舎ニ千五百口斗ノ地ナリ此
處ヲ勸ルニ凡ソ公會ニ入ルモノ三百五十人餘出録ナリ
夫ヨリ漸々ニ弘マリ今日ニテハ洗禮ヲ受シ者七千人ニ餘ル
是ハ支那フチヤウト咄ナリ今爾等ニ天父ト耶蘇ノ名ニヨリ
テ命シ度事アリ此教ヲ盛大ニ弘メント思ハ此横濱耳
ニテ勸ルヨリ早ク方々ニ出田舎間ヨリ重ニ開クヘシ云

此咄ヲ聞バシラ長走諸弟子等大ニ喜ヘリ

バシラ學校ノ公會日盛ナリビヤソシ學校聖教生盛ナリビヤ

シラ學校ノ夜會日曜日水曜日一周ニ夜ツナリ己ニ二月ニ音

ノ夜會杯アツリノ群集ニテ書生ノ帽子洋傘等種々品物

紛失スルホリノ敏系昌ナリ

来ル二十一日ノ安息日ニハヒヤソシ書生ニテハ靜岡縣下村ハ孫六

大村熊野安次郎ノ兩人バシラ書生中ニ三ノ小川廉之助妻

大坪正之助妻當地本村徳嶋屋久兵衛與伊東某等

授洗ノ義九ノ相交候尚巨細搜索ノ上追可申上候

三月

正木護

オカニ
生中
シ
シ



本月一日安息日例月ノ通横濱行仕炭處公會益盛

而モ有名ノ教師五人ウリヤムスヘボンフラオンタムソン

ハラン右列席ニテカワルキ教理ヲ講述ス就中ウリヤムス

ハ初發開港應接ノ節ペールリニ從ヒ通子官ニテ

來朝ノ初ヨリ此國ニ教ヲ弘メテ積年周旋苦心ス今

日ニ至テ此教ノ盛ニ行ルハ全ク真神聖靈ノ恩惠ナルニ

ヨテ弥ヨ厚ク神ト耶模基督ヲ信シ頼メヨト懇ニ説

論仕炭

奥野正義ハ元東京上野邊ノ人ニテ和語子ニ達スル由昨年

来ヘボンノ和語師匠トナリテ同人ノ館ニ居住スヘボン留中

ハブラオンノ和譯ノ手傳杯致居炭尤當春此迄ハ格別

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

正本



彼教ヲ信スル相々見ヘス炭炭近時殊外厚信ノ徒トナリ
教理ニ通達シ意味ヲ弁解スル小川長老杯ヨリモ勝レ
タリトス此日ブライカンヨリ受洗仕炭也已上

七月二日

正木護

川信三三三三三
三三三

正護 (正木護)



三要文

鉄炮洲六番書庫日誌

114
A

彼教ヲ信スル相々見ヘス其處近時殊外厚信ノ徒トナリ
教理ニ通達シ意味ヲ弁解スル小川長老杯ヨリモ勝レ
タリトス此日ブラカンヨリ受洗仕度也已上

正木護

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



神ハ言ヒテ云クこの言を聞いていづく我ハアキエト
の地を去る家のよりなんぢとをみらばさいごに
いづくの赤バヤんらの神なり○なんぢがわらのまへ
にこのくろ神とをいづくぞ○なんぢのたれは偶像と
いふならぬあへん上の天あへん下の地あへん地の下
の水のなかにあるをいづるものなり○いづりてつらなれなんぢ
らに平伏せよこれよりいづれをいづるエホバなんぢらの神と
あへん神の神あはれ父のつとめその子孫に罰せられ
よといひぬ三四代よりいづるをいづるをいづりて

鉄炮洲六番書庫日誌



彼教ヲ信スル相ヲ見ヘス辰處近時殊外厚信ノ後トナリ
教理ニ通達シ意味ヲ弁解スル小川長老杯ヨリモ勝レ
タリトス此日ブランチヨリ受洗仕辰也已上

正木 護

ヨリヨリもあつたものハ千代よいもまてめとて
こゝん③エバなんぢの神の名をこゝりに稱するがれエバ
ハその名をこゝりに稱するものとていふことせむべし④安
息日とせしめてくれとてせむべし六日のあひつゝもて渡の
こゝんとてせ七日めハエバなんぢの神のやどみありこの日
こゝんをいふのこゝんをいふことせむべしなんぢのむまこ
ひとあちまへ下女畜ものまこなんぢの門内にある旅びも
ありエバ六日のうちハ天地と海とそのなりのあつた
このことして七日めハやどありこのゆゑハエバ安息日

とていふことせむべし⑤なんぢの父と母とをまよへ
これなんぢのいのちエバなんぢの神のたまふことこの地よな
がらんたあり⑥人をこゝりせむべし⑦熱湯とていふれ
⑧むまこ⑨なんぢのいのちのこゝんことせむ
あれ⑩なんぢのいのちの家とていふがれまこなんぢ
のいのちの妻とていふ下女牛驢馬とていふことせむ
このことせむべし⑪なんぢのいのちのこゝんことせむ
天よまよへことせむべし⑫の父と母とをまよへことせむ

鉄炮洲六番書庫日誌

彼教ヲ信スル相々見ヘス候處近時殊外厚信ノ徒トナリ
教理ニ通達シ意味ヲ弁解スル小川長老杯ヨリモ勝レ
タリトス此日ブラカシヨリ受洗仕候也已上

正木護

明治六年五月三日
才百五

鉄炮洲六番書庫日誌



耶穌教書肆日誌

今般美國オハヨリ産耶穌教一レスヒテレヤン宗教
 師カレトテス鉄炮洲六番地ニ耶穌教書肆一號
 シテ一石庫ヲ創建シ三月十七日店ヲ開キ不取
 敢店主ノホリイ石里金藏越前足羽ヲ書庫ノ
 番人トシテ日々盛ニシ高ヒテ教サセシカ或日書林某
 来リ應接中何ノ間凌マリシカ互ニ争ラ起シ終ニ喧
 嘩トナリタル由ニテ店主大ニ怒リ金藏ヲシテ其職ヲ
 度ス其後追々人ヲ撰フトシテ教外ノ者ニテ其任ヲ
 尽サストテ大ニ苦心スル中生カ日々タムリシク知一地百

大正十一年四月
大隈侯爵率

古行クヲ見テ庫主頻リ生ラシテ書店ノ取締ヲ頼
ム再三固辭スルニ民強テ迫ルニ付是モ云ノ一助ト
思ヒ一時其情ニ應ジ廿六日ヨリ毎朝十時ヨリ四時迄
ノ定約ヲ完メテ也

廿六日漢譯百七冊金七圓府下軒堀二丁目越前屋
三郎太郎ト云書林求ム

廿七日譯本七十五冊金七圓一方尼造頼ノ生徒六人求
ム

廿八日譯本八百七十二冊金拾三兩芝山屋求ム

廿九日漢洋廿五冊金五兩三步横濱教會本田求ム○

或ル人カ引車ヲ庫外ニ置キオソレク庫中ヨリ伺ヒ見テ
是ニ向テ其書物私共ニテモ求ラレテヤト云生各テ誰ニテ
モ求ムラテ許スト云然レハリドレヲ求テ價ナキ物
テ買タリ生彼ニ向テ本ヲ買テ何ニスルソ彼云私ニ一人ノ
娘アリ親又ハ人カヲ引ホトノ賤シキ身ナレトモ何トソ娘ニハ
洋書ヲ勉強サセ置ク女教師トナシ學校ノ一ツモ領スルヤウニ
ナレタレト云依テ任所姓名ヲモ尋置ニト思フ中客アリテ忽
人カラ引去ハ寔ニ開化ハ何レニアルカ可思

三十日安息日故休業ノ答ナレトモ教法ノ書ナレハ望ム人求レハ
午前迄ハ賣ルト云テ教師共衷議ニテ決セリ○漢洋六

冊金一兩三歩或ハ書生求ル○カロテニ以日曜日ヨリ福澤ノ塾ヲ
千前九時ヨリ十時迄ハイフルノ説教ヲ始ク同人帰テ生ハ吐テ之ノ
今日福澤ニテ廣クノ席ニ生徒二百六十人ヲ集メ説教セリトテ
意氣揚カトシテ語レリ○昨土曜日ノ夜ヨリ福澤ノ生徒教ノ歌ヲ
学フ為カロテスルノ學校ニ集ム○今朝タケリシノ説教ハ十
人余堂内国人七十余人集ル

三十一日漢洋百冊金四兩二朱

四月一日漢譯中六冊金三兩二朱尼迄頼塾生宮城縣ノ人九人未
テ右本國許ヨリノ注文トテ求ム傍ニ静岡縣佐久間某ト云
人之ヲ見テ大ニ嘆云先生方左様ナ本ヲ以テ徘徊スルト人テマニ

嶋津三郎サンカ出カケルト大變ダト云依テ生談ニ貴縣ニ中村

敬助ト云有名ノ人アルテマヒカトイハ佐久間云彼ハ大馬鹿ナリ

アノヤウナモノニ相手ニナレモノハ縣内ニナイ杯イリ○松平伊賀守

元嶺下米詳三男松平忠孝以前ウエルツキ門人今日ヨリ小川席之助

方ニ寄宿シタケリニ依頼シ専ラ教法ヲ修ス

二日漢譯四百三十三冊金二十二兩越前屋彦太郎親子連

ニ来テ来

三日五十六冊金一兩一歩二朱

四日洋書五冊金四兩一歩三朱

五日漢洋五十冊金八兩三歩三朱ウエルツキ漢列傳覽

會ニ近日出帆スルヲタリシカハロテスニ告ニ為ニ来リ因ニ右
書ヲ求ム

六日安息日タリシ小川廣之助横濱ニ行

七日漢譯二十五冊金五兩二歩一朱

八日漢譯五十八冊金三兩一朱尼造頼生五人来テ求ム

九日漢譯五十六冊金三兩二歩ウエルツキ注文ヲ同ク書来テ

持歸ル外ニ漢譯八冊尼造頼生求ム○横文ノハイフル尺テ横

濱ヨリ取寄ル為電信ヲ遣フ

十日今朝ハイフル一箱横濱ヨリ来ル○漢譯四百二冊芝山口屋

求金拾四兩也○洋書三冊金二兩三歩二朱松平忠孝求ム

十日漢譯六十三冊金七圓三歩仙臺宮城縣下ノ老人年誌
廿五

ト書生年誌
廿五ト兩人ニテ求ム老人書ヲ賣得シテ大ニ喜テあり

近來縣内ニ是等ノ教蔓延シテ若共知ラサルモノナシ国元

ニテ聊カ小冊ノ譯書ナハ見タレトモ未タ讀マサル本多シ

若輩共却テ種々ノ書ヲ讀テ我輩ヲ不知ラ賣ム今幸

ニ此書店ノ開クルヲ聞シニ充分ニ書ヲ得テ之ヲ學ビイタ

他ヲ誘引セント欲スト歡ヒ語ル中傍ニ高知縣士族トテ

年廿八九斗ノ人来リ此老人ノ咄ヲ聞大ニ喜シテ云リ先

生何ヲ以テ此教ヲ善良ノ法ト云哉下夕學ビ得テ人ヲ誘引

スレハ何ノ益アルト思フ哉老人云此教ハ神佛佛ノ如キ人造ノ

假教ニ非ス全能ノ主宰タル真神ノ立ルルニシテ此最勝ノ教
ナレハ之ヲ遜美之ヲ信シテ人ヲモ善道ニ導カント思ハナリ高知
元始以教ヲ開キタル時ハ善教カ悪道カ今ノ所論ニ非ストシ
テ當今 御国ニ侵入スル洋教三宗アリ カトリック フロテ
スタン ト キリヤ ナリ 何レモ 教師来テ其教ヲ説ク眼前
ニ各宗教師ノ説クトコロト 彼カ行ヒテ以テ論スニシテ三宗
何レモ其根元天主耶穌ヲ尊奉尊崇ストイヒ 分宗各立
シテ固執アリ 扁辟アリ 先カトリックノ如キハ己カ教ノ本ト
タル 舊新兩約ニ背キ 天ヨリ与ヘタト云ホトノ大切ナ事
ヲ得手ニ取括シテ 弟ニ勿辨偶像ノ誡ヲ引候キ 偶像

ヲ置キ其他己カ宗風ニ合セテ 聖書ノ文ヲ加減ス 且真神ノ立タ
モノヲ後人ノ適意不適意ニヨテ 教ヘ方ヲカスルハ 其来ノモト
ナリ 又同シ耶穌ノ十二門徒ノ一列ノ中カラ 己レノ意ニ任セテ
彼得一人ヲ撰挙ケ 彼等カ宗祖トシテ 崇ヒ 天国ノ鍵ト地獄
ノ鍵トヲ以テ 彼得カ 審判スル杯ノ言ヲ張ル 新約書何カ
讀テモ 耶穌カ 彼得一人ニ 右等ノ權ヲ与ヘタト云フナシ 其上
カノ 彼得ハ 耶穌十字架針死ノ前夜ニ 三度モ 耶穌ヲ
講ミ 己カ命ヲ全セシメ 其程ノ不信者テアリシモノナリ 新約
馬太傳二十六章九節ヨリ見ルニ 一時適レテ 命ハアワケレトモ
終ニ其罪ノ為ニ 十字架ノ苦ヲ見タリ 如是狡猾ナ弟子ニハ

ヨモヤ天国ノ鍵モ預ケラレシ 其未流ヲ羅馬ノ法王ト稱シ權
ヲ張リ領分ヲ持テ境ヲ争ヒ賊ヲ貪リ戦争スル共トハ
第十條ノ母貧人第宅妻室僕婢牛驢ト凡屬於人者ノ
誠ニモ背ケリ可笑トナリ「キリヤ」ノ如キモ亦十誠ノ全分ヲ
用ヒナカラ耶穌馬利亞ノ画像ヲ掛ケ受洗ノ人ニ純金ヲ以テ
製スル美麗ナル十字架針死ノ像ヲ与フ是偶像ニ非スレテ
何ソヤ表ニ母様偶像トテ二誠ノ看板ヲ掛裏ニ偶像ヲ
辨セハ第九條ノ母妾證ノ誠ニモ亦背ケレシ曾聞ク教師
ニコライ「ニ魯國政府ヨリ月給三千金ヲ贈ル」何ソク
教ハ弘ル耳 如是大金ヲ費サシヤ之深謀アテ可思「プロ

テスタント」ノ如キハ耶穌降世ヨリ二百年斗モ後ニ羅
馬教中ヨリセルヤンノ「ロツル」神テ「ハイル」ヲ言ハ本ノ中
ヨリ見出し之ヲ真ノ耶穌ノ教トナシテ大ニ議論ヲ
發シ然ニ戦争ニ及分宗シタル教ニ餘程狡猾ニ出テ
偶像モナレヨリ 聖書ニ合セテアレバ今日ニ至テハ律々弊
害アリ此論暫クオキ今眼前ノ事ニ付テ論スルニ 全軀今教
ノ首トスルトコロハ今日ノ「ハ」今日ニハカリ明日ノ「ハ」カレ
必ス地ニ財寶ヲ積勿レト云カ教大趣意ト聞ク馬太傳十五章
九節已下ヲ見ルニ然レシカルトス杯ハ先生方見ル通り如是
高大美麗ノ家作ヲシ刺一居宅耳ナズニケルモ普請ヲ

コレ大工作官杯少シノ間ヲモハ鞭ヲ以テ之ヲ折テ其止ニテ
雇金ヲ引少クモ愛人如己ノ気色ハナリ已ニ外國ヨリ居留
ノ大工ノ棟梁ヲ充分骨ヲ折ラセ過半成就ノ上終ニ喧嘩
ヲ始メ給料ヲモ遣ラヌ不平ノ下、断ッテ其精校暴悪
推^知可又側カニ聞ク久福澤ノ塾ニ通ヒ毎日一字ヨリ四字迄ニ月給
百八十金モ己ノ他用アルハ不行シテ月金ハ全分取リ追々福澤
ニ教師部屋出来シハ妻ト共ニ引越跡ノ居室ニ家ナカラ借家
トシ家賃大金ヲ食ルノ策ト聞ク之今日ハ今日量リ明日ハ明日ニ
量ルト云ヘキカ實ニ至貧至愁ト謂フヘシ尤カクテ耳ナラス横濱
居留ノ教師共如是狡猾奸謀ニテ往々耳ニ振タリケ様ノ振舞ヲ

見^テ其教ノ不善ナリ察知ス一之加之其教ノ即國內入ルヘカラサル
ノ害ニテ論シタケシハ最早晩景ニ至ル故コトヲ并ニ述ビ追テ
アラス先生方モ早ク眼ヲ開キ國害々々知リ願ク之ヲ防カシ
テラ^ラ尺カシユ一因ニ洋人ヨリ近日聞ク咄ヲ一口セシ彼國ニテ
モ以前ハ教法ヲ以テ開化ノ即トスルトテ用ヒタレトモ追々開化ニ
進歩シテミルハ却テ教ノ固習頑癖ヲ以テ開化ヲニ難塞ス
スルノ風姿アルニ各國ニテモ追々其教ヲニ度セトスル説ク由ト聞ク
仲教西天ニ起テ今東土ニ盛ナリ教ト云モノハ東亞ニ至ル理ヲ未ダ
充分ニ入ラセ中ニ早ク防クノ下コト急務ナリ却テ之ヲ學ビシトスルハ
所謂獅子身中虫 即國內ノ人種ニテ國ヲ壞ルノ大害可惡ノ大

尤モノナリ更ニ芝生方モ分別ラセ^ル寫^ル勤考^シ之^カ道遠ケ^ル
御先キニ御暇ト充分ニ呼言^シテあり又先人ト若共互ニ見合
不^レ辛ノ色満面ヲ求タルホ^ク負^テ歸^ル○ハイフル一^ニ再漢譯

一^ニ再福澤生間宮某求^ル

十二日仙臺若生復来^ル漢譯九^冊金一圓二方七錢

半○ハイフル完ニ横文註釈漢七^冊金三圓半福澤生之

三^ニ求^ル○和譯漢譯二^冊三朱壹錢宇都宮生求^ル

十三日朝タムシ^ン説教四十人余堂内同人廿八人○ハイフル

一^ニ再和譯二^冊金一圓半千村五郎求^ル此人芝將監橋ニ
住^ス昨年亞米利加千カゴ^ノ子校一カ^ルテス^ノ孫書目ニテ

入校ニ當^リ三月下旬歸朝ノ由ニ毎度カ^ルテス^ノ宅ニ出入ス

昔漢譯三^冊四錢四分築地^{本郷寺}門跡内生徒求^ル○今夜第八字

ヨリタムシ^ン居間ニテ夜講ヲ始^ム

十五日漢洋十^冊金二圓三朱三錢

十六日和漢洋百五十六^冊金三圓一方半八十文○四月一日ニ

記^ス静岡縣佐久間某タムシ^ンヨリ教ヲ聞^ク為^リワサ^リ銃炮

洲船松町米屋ノ橋ヲ借^リ移^ル

十七日ハイフル大小八^冊芝居町土屋忠次郎ト云書林求

金五圓也○漢譯四^冊金三朱尼道賴ノ生徒戸田隆平求^ル貝

ノ出^ニシテ今日尼道賴ノ生徒十三人受^テ彼塾中^ニ百六十

人通學子生ト合シハ四百余人ノ由宮城縣下ハイヨリ盛ニシテ彼國ヨ
リワチリ受洗ノ為ニ来ル人モアル由○十一日ニ記セテ宮城縣ノ
老人ハ彼國ニシテ有名ノ厚信家ニテ堺某ト云人ノ由○亦兩
約書六部金七兩三歩二朱芝山宮屋永ハ○漢記九冊金
一冊二方半拾錢築地亦取寺内生徒永ハ○トリスジナス一
冊金一方赤段ヨリ来ラカレトス妻ニ和語ヲ教ヘ為ニ同人ニモ
高居ス娘永ハ

十八日ハイフル一冊金二方半今日ヨリタケソンへ入門ノ生徒^{名ヲ}永ハ○
ハイフル一冊二方半本更縣上總ノ生ニ来リ永ハ之モ今日ヨリ外
ハフニ入門ス○ハイフル一冊金二冊二方半福澤生永ハ

十九日ハイフル二冊亦兩約書一部金三四一方三朱福澤生永○
漢洋二冊金三朱七錢石鏞縣下松山生永明日ヨリタケソンへ入門
ノ約束ス○漢譯七冊金二方半若松縣下士族三人ニテ永ハ
○大亦兩約書三部金五冊二方半芝山宮屋永ハ

廿日漢譯六冊金三朱二錢半尼造賴生宮城縣下古地雅
名宮本十卷兩人ニテ永ハ○ハイフル二冊金二冊三方今日ヨリ
タケソンへ入門ノ生徒^{名ヲ}永ハ○今朝タケソン説教六十人余
堂内七十人○堂内説教ハ横濱ヨリブラカニ来テ説ク

廿一日漢洋四十六冊金二冊二方半四錢九分尼造賴生宮城縣
影田某ト同縣ノ人ト兩人ニテ永ハ○午後另三字半横濱ヨリ

支那ノ教師某夫婦トハリト来リカロテニタリシト共ニ懇話
ス跡ヲ聞ク支那ノ教師東京一見ノ為ハラ案内トナリ
廿二日漢譯四冊十五錢藥地生來

廿三日漢訳七冊十五錢七分。漢訳十五冊二方三朱三錢
三分〇元ト千村五郎ノ生徒片岡仙庵トシ人外一人ト元江
別産高田義輔ノ著ス禁鴉片論百冊ヲ持来テコ
レ書庫ニテ賣ラ買フ約束ニ来ル高田義輔ハ當時
向嶋寺嶋新田ニ任シ專ラ此教ヲ信シ漢譯ノ西約書
ハ假名ヲ付ケ出教スル由併シ文部ニテハ許可スルハ教部
ニテ障タル由去テカラ許可ノ有無ニ関セ又院板ストノ勢ヒ

追々西約金書ハ平假名ヲ以テ注釋ヲ加ヘ出板スル由此人ハ
從來神道者ニテ洋書ハ格別讀メ又由ナシトモ洋學生
漢學生其他板下ノ書等迄雇ヒ入レ盛ナル由カロテスノ
和語翻譯問板ノフステ此人ノ周旋ナリ彼千村五郎ト同穴

ナリ

廿四日静岡縣下團幸堂ト云老人頻リニ教ヲ聞度ヒトテ
小川康之助ハモ行書庫ハモ来リ耶穌之言ト云小冊價
三十文ノ本ヲ求メ歸ル。横濱ヨリゴトフル夫婦ト娘兩人ト
来ハイフル。十二冊ヲ求メ今夜千村五郎宅ハ宿ストカレテ
ス。詔ルヲ聞ク。漢譯大箱八。上海ヨリ着セリ

廿五日昨日来ルホラ調ルニ付開店セス

廿六日同断

廿七日今朝タムソシ説教八十余人堂内同上

廿八日洋漢七冊金二方〇今日ハラトギウレキノ第トフラオンノ書ト来ル何ノ為ニ来ルカタムソシカルロテスニ懇話モテ直ニ帰港ス

廿九日漢譯三冊トホ西約書一部金四二方半松平忠存求ム〇天道溯原百冊ホーイ金藏求ム金廿四〇ハイフル二冊金二四二支長沼ノ塾生小林某求ム〇漢譯四冊二支三錢中村敬太郎同島東京新報ノ板主小石河町外虛心堂飯

島某ト云人ホム此人支般ヨリ天道溯原ニ假名ヲ附開板仕度由ラ文部省へ取出セトモ拒ムモノアリテ未タ其志ヲ全セスト歎セリ
三十日雨天ノユカ客一人モナシ
右今日迄ノ事情荒増申上候也頓首謹白

四月三十日

誦者某百録

